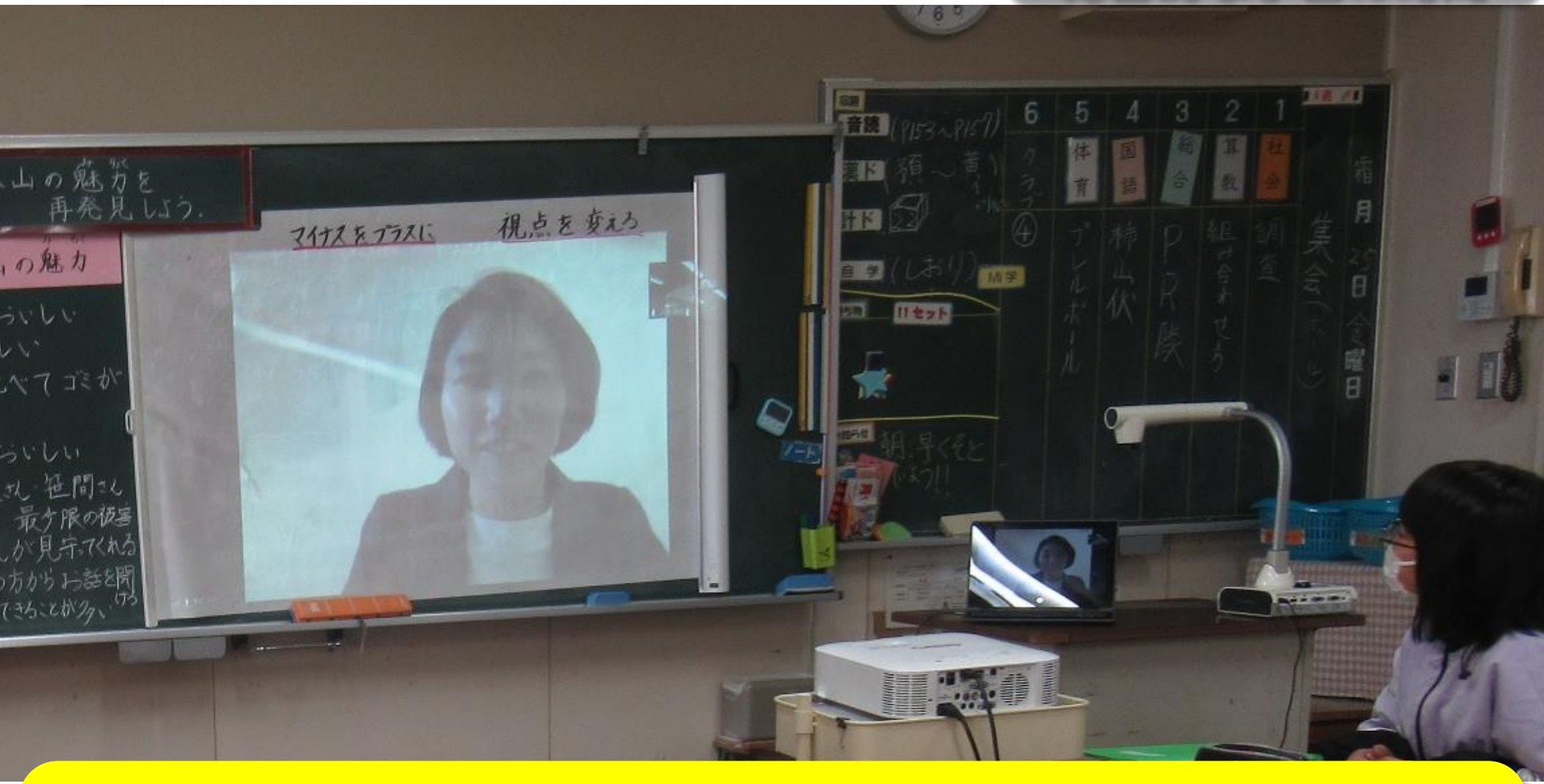
小学校第６学年
総合的な学習の時間



オンラインで参加するゲストティーチャーと、ワークシートをクラウドで共有しながら一緒に話し合い、自分の考えを更に深める。

【協力】静岡市立由比北小学校

小学校第６学年　総合的な学習の時間　「ぼくら由比PR隊！」

■単元の目標

観光客に地域のよさを紹介するために、地域の魅力を調査し、ガイドマップを作成して発信する活動を通して、地域の魅力を守ったり生み出したりすることができることを理解し、地域の一員として行事に参加したりPR活動したりすることができるようにする。

■単元の概要

地域の課題と魅力を実感した子供が、地域の魅力を発信するために、地域活性化に取り組んでいるゲストティチャーの考えを参考にしながら、地域のPR活動に挑戦していく。

■単元の指導計画（40時間）

第1小単元
「地域の自慢を調べよう」
- 地域全体をフィールドワークする
- 地域の行事を企画・運営している方にインタビューする
- 地域の課題や自慢について話し合う

第2小単元
「ぼくら由比PR隊！」
- 地域を活性化しているゲストティーチャーに出会い、観光客向けのガイドマップについて調べる
- 地域ガイドマップの試作品をゲストティーチャーや観光に関わる方に評価してもらい改善を繰り返し
- 地域ガイドマップを作る

第3小単元
「地域の自慢を未来につなげよう」
- 観光客にガイドマップで地域をPRする
- 持続可能な取組となるように話し合う
- 地域のPR活動を振り返る

■小単元の概要

地域全体をフィールドワークする前に、今までの経験や感じていることから地域の課題や魅力に関心を向ける。そして自然、伝統、産業、人々の暮らしなどを意識してフィールドワークして情報を収集する。

地域の魅力をガイドマップで発信していく可能性を見いだし、自分たちの地域のガイドマップを作成する。対面やオンライン会議でゲストティーチャーから、アドバイスをもらったり質問したりすることでガイドマップの試作品を作る。観光に関わる方からの評価なども生かしながら、観光客に地域の魅力が伝わるように改善したガイドマップを作る。

完成した地域ガイドマップに、メッセージを乗せて地域のPR活動に挑戦する。また、持続可能な取組となるように発表イベントで広く伝える。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第２小単元）

【学習活動の場面】

ガイドマップでPRするために、地域の魅力や自慢したいことを使ってキャッチフレーズを考えていった。子供は「ここでしか味わえない絶景、名物『１００匹の鯉のぼり祭り』、美味しい水と山の恵み」とプラス面を強調したが、どれもありきたりでインパクトに欠けると感じていた。そこで教師は、**「ゲストティーチャーは、どのようにキャッチフレーズを作っているのだろうか」**と情報の収集場面を作った。

【子供の「深い学び」の姿】

Aはスプレッドシートに書き込んだキャッチフレーズを、オンライン会議システムで参加しているゲストティーチャーに見せながら、インパクトに欠けると感じるので更によくすることについて相談した。他の子供のキャッチフレーズも、Ａと同じように「風景」「名物」「祭り」「自然」などのプラス面を強調していて解決に行き詰まっていた。ゲストティーチャーは、「地域の人が当たり前にあると感じていることでも、観光客にとっては観光資源になることがある。」と答えた。

そこで、学級全体で、地域の人が当たり前に感じている事柄についてスプレッドシートに同時編集で書き込みをした。そこには、山、川、空気、水、人口減少、住民５００人、店がない、きれいの記述が多く見られた。Ａが「これらの当たり前が観光資源になるとはどういうことですか？」と質問した。**ゲストティーチャーもスプレッドシートの記述を参照しながら**「例えば、山しかない、川しかないというマイナスな表現は、美しい山々、美味しい水の使った○○があるというプラスの表現に変えて観光資源にします。」と答えた。そこで、Ａは、地域の特徴を多面的に捉え、その中から強みを強調して次のようにキャッチフレーズを作った。

Ａ「山が多く工場がなく、５００人しか住んでいないから、空気も水も美味しい」

【当該指導での「深い学び」】

Aは、キャッチフレーズを考える中で、ゲストティーチャーのアドバイスから地域の特徴を多面的・多角的に捉えたことを、**スプレッドシートに書き込み共有した。キャッチフレーズを作成するために地域の事柄を整理・分析したり、随時、疑問点についてゲストティーチャーからアドバイスを受けたりした結果、物事の特性を多面的に捉えること、そこから強みを強調することができることについて学び、**地域の特徴を効果的に強調するキャッチフレーズを作ることができた。

■指導上の工夫とICTの利活用

①別の角度から考える場面を作る。
＊ゲストティーチャーのアドバイスを生かし、多様な視点で考えられるようになる。

②**課題解決に向けて、ゲストティーチャーに相談したり質問したりできる活動を位置付ける。**
＊継続的に関わっていただくゲストティーチャーには、対面又はオンラインをその日の状況に応じて選択いただくことで、負担を軽減し、関わっていただきやすくする。
＊ゲストティーチャーが子供の発言やスプレッドシートへの書き込みを参考にしながら助言することは、時や場を超えた情報収集となり、課題解決に向かいやすくなる。

③学級全体で情報交換したり考えたりする時間を確保する。
＊新たな情報を手掛かりにして、別の角度から考えたり、具体化する活動を位置付け、それを文章に表すことで自らの考えを深いものにしていく。

【活用したソフトや機能】
オンライン会議システム
スプレッドシート

学習指導要領や解説との関連

学習指導要領　第5章　総合的な学習の時間

第1　目標
⑵ 実社会や実生活の中から問いを見いだし，自分で課題を立て，**情報を集め，整理・分析して，**まとめ・表現することができるようにする。

第３の２の（７）
⑺　学校図書館の活用，他の学校との連携，公民館，図書館，博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体**等の各種団体との連携，地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと**。

出典：小学校学習指導要領P179、181-182